

財団だより

第125号

2010.3

# 多摩川



鯰鎌 / 大田区立郷土博物館蔵

事業年報特集号



Photo &amp; Text

遠藤穎彦 (Hidehiko Endo) 渋谷区在住

## 羽村取水堰

多摩川五十景の内、八景で取材した玉川上水の水を取り入れる堰として江戸時代から現在まで都民の水供給の重要な施設となっています。

この堰は、多摩川の水をせき止め水道用の源水を玉川上水路にひき入れるために造られたもので、固定堰や投渡堰（なげわたしせき）と呼ばれる珍しい構造の堰から出来ているとの事。投渡堰とは川に鉄製の桁を渡し、これに松丸太、そだと云われる木の枝を束ねたもので、砂利等を取付けて造られたもの。この羽村取水堰から取り入れられた水は、新宿四ツ谷大木戸に至る延長約43kmの玉川上水に注がれていました。

羽村橋付近には2000本のソメイヨシノが、桜の葉が上水を浄化すると云われ植えられたのが、今ではすっかり桜の名所になっていて、春には花見客で賑わうほか、都や市指定の文化財もあり散策の地として親しまれている。

## Contents 目次

- 巻頭言 環境から持続可能性へ ..... 2
- 特別寄稿 多摩川を描く ..... 3
- 生物多様性と「おさかなポスト」 ..... 4
- 多摩から発信！緑のまちづくり ..... 5
- 水源より情報が湧く「水の学校」 ..... 6
- 大菩薩峠は交易の十字路 ..... 7
- インフォメ／多摩川 ..... 8
- 財団事業年報特集
  - 事業日誌 ..... 10
  - 研究助成事業 ..... 12
  - 第1回社会貢献学術賞 ..... 16
  - 多摩川流域で活動している団体一覧 ..... 17
  - 多摩川関連の主な新聞記事 ..... 18

## 巻頭言

### 環境から持続可能性へ



国際連合大学 特別学術顧問  
放送大学 教授  
環境省中央環境審議会 会長  
第1回とうきゅう環境浄化財団  
社会貢献学術賞受賞

鈴木 基之

コペンハーゲンで開かれた COP15 も一つの契機となり、地球温暖化に向かって地球が今後どのような枠組みのもとで生き延びていくのかに関心を持たれる方も増えてきた。実は、地球上の人間活動は、地球システムの持っている諸々の容量を既に大きく超え、将来的には大きな破局を招来すると言われている。この事態を防ぐために、未来にわたり持続可能な人間活動のあり方を追求すべきことがようやく認識されるようになってきた。

地球全体としての持続可能性などと言われても、従来は理想的には理解できても極めて具体性に乏しい概念であったろう。しかしながら、わが国が平成に変わって以来、最近の 20 年の間に、世界は大きく変化してきたのであり、それがために、これまでと同じような人間活動を継続する訳にいかないことによりやく気付くようになったのである。

この変化の象徴として、3つのことを挙げよう。1つは、1989年のベルリンの壁の崩壊に象徴される東西二極体制の終焉であり、これはその後の市場経済万能に主導される価値観の一極化を迎えたことである。2つは、情報技術の革命的進展であり、90年代以降コンピューターの演算速度は約3年で10倍、すなわち20年で100万倍を越すものとなっていることや、1991年にWWW（ワールド・ワイド・ウェブ）が発表されインターネットなどが普及し、地球の裏側の情報が瞬時にして入手できるようになった。地球の情報距離は著しく小さくなったのである。3つ目は地球環境に対する問題意識である。1988年に米国上院の公聴会でNASA

のジェームス・ハンセンが「地球温暖化の進行」を証言して以来、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）も同年に設置され、世界的な関心が高まった。スーパーコンピューターを用いた、温暖化の予測などを通じて、地球気候システムの構造もある程度分かるようになった。この3つの象徴的な事象が教えたことは、地球が小さくなったということであろう。今は、地球上に神秘的な処は殆んど無くなり、色々なことが見えるようになった。今更のように気付いたことは、地球の「有限性」である。地下資源、エネルギー資源は勿論、地上の生態系が提供してくれるサービスも有限であり、しかも人間の数は急速に増え続けているのである。1950年には26億であった人口は、2000年には60億を超え、2050年には92億になると予想されている。何の配慮もなく、このまま進んでいくことになれば、地球が破局を迎えるのは明らかである。

これを防ぐためには、巨大な人間活動を限られた地球の容量の中で如何に営んでいくのかの姿を作り上げることであり、これがまさに「持続可能な社会像」に他ならないのである。わが国の「21世紀環境立国戦略」（2007閣議決定）は持続可能な社会の3つの側面として、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を示している。このなかでも自然共生社会を如何に具体化するかは狭い国土に67%の森林と高密度な高齢化人口を抱えるわが国において多様な解がありうる課題である。地域の特性、文化・伝統に根ざして、住民の知恵も巻き込み、人類にとっても根本的な「自然の中での人の生き方」を考え直す良い機会ともなるであろう。

人口密集地に接して流れる多摩川も、人々に近い存在としての多様な意味を有しており、この潜在的な価値を高めていくことは、筆者も含め多摩川に接する人々の側が総意を集め努力すべき役割であろう。

## 特別寄稿

# 多摩川を描く



東建ジオテック(株) 顧問  
美しい多摩川フォーラム  
アドバイザー

野尻 明美

定年後3年経って初めて持った水筆ペンで描きだした淡彩スケッチは8年経って4700枚に達している。もちろん1日1枚以上は描いていることになる。7年目の昨年は3500枚であったことを考えると、この1年は1200枚となり1日3枚ペースで描き続けたことになる。



その原因は、一昨年の正月に多摩川フォーラムの事務局長<sup>i</sup>にお会いして引き受けた「多摩川さくら札所88カ所」<sup>ii</sup>と続いて今描いている「美しい多摩川の四季」100景のスケッチである。

未だに現役の顧問でありながら、多摩川のスケッチを2年間で1700枚も描いていたことに我ながらびっくり仰天！粗製乱造の誹りを受けることになろうが描いたスケッチが使われるということは素人絵描きとしては望外の喜び。

ぬれ落ち葉対策として選んだ淡彩スケッチに感謝であり、私のスケッチを採用してくれた一期一会の多摩川フォーラムに感謝である。また、それを「趣味の達人」として紹介してくれたさいたまTVや「水彩スケッチと10の活用法」として出版してくれた日貿出版社ほか多摩川沿の高尾登山電鉄(株)、高幡不動尊、小菅

の湯、奥多摩観光協会、昭和記念公園、二カ領せせらぎ館などなど、私のスケッチを展示あるいは絵葉書の作成などで活用していただいている皆様への感謝も忘れることはできない。

拙著「水彩スケッチと10の活用術」にも詳しく書いたが、水彩スケッチを趣味として長続きさせるためにはいかにして活用するかがポイントである。逆に言うと、活用できるようなスケッチを描かないと途中で挫折する。

私の場合は誰にも教えてもらわない無手勝流、しかもほとんどすべてF3という画用紙。これはちょうどA4と同じ幅のものでパソコンへの取り込みが簡単でありプリントアウトしたものが原画より美しく仕上がる。これを描かせていただいた風景の持ち主に感謝の気持ちでプレゼントすることにしている。原画は100円ショップのクリアファイルに入れて本箱へ。4500枚描いても大きな本箱1箱分。

問題は額縁である。昨年の青梅美術館での「多摩川さくら札所88ヶ所」の原画展は90枚の自作の額縁を

用意した。私の額縁は親指大の小枝をベニヤ板の周りに打ちつけ、アクリルグラスを釘で止めただけの自作である。とはいうものの、小枝は桜、梅、白樺のように樹皮が美しいもので、しかもある程度まっすぐなものな

いと使えない。

この小枝ばかりは買うことはできない。我が家の庭の梅の木や台風の置き土産で吹き飛んだ裏山のさくらの小枝を集め、蓼科にある弊社の保養所へ出かけたときには集めておいて貰った白樺の小枝をもらってくるなど涙ぐましい不断努力が必要となる。

今年もまた、この財団だより「多摩川」がお手元に届く頃には青梅美術館<sup>iii</sup>で「美しい多摩川100景」を展示していることになる。中身のスケッチと共に私の労作「小枝の額縁」もご笑覧いただければ幸甚です。

スケッチはパノラマで描いた御岳溪谷にかかる鶯の瀬橋

i 宮坂不二生 財団だより「多摩川」122号5P

ii [http://www.sakurakaido.jp/map\\_sketch.html](http://www.sakurakaido.jp/map_sketch.html)

iii 平成22年3月9日～14日

## 多摩川に学ぶ

### 生物多様性と「おさかなポスト」



ガサガサ水辺の移動水族館 代表  
東京レッドデータブック 委員  
川崎河川漁業協同組合 総代  
美しい多摩川フォーラム 運営委員

山崎 充哲

幼少の頃は魚採りを趣味とし、淡水魚類研究職、川漁師として50年近く多摩川に関わり、この2年は東京都レッドデータブック選定委員として、多摩川の自然環境を見守ってきた。この50年は良いも悪いも劇的な変遷を遂げた多摩川である。高度成長期には汚染が進み『死の川』となった多摩川だが、現在は下水処理施設が整い、アユやマルタが清流に戻り、多くの市民の憩いの場となった。しかし、水がきれいになったことにより、新たな問題を抱える川にもなってしまった。

生物多様性国家プロジェクトには「外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱」が危機として提言されているが、多摩川には家庭でペットとして飼われていた外来種から、環境省が定める特定外来種まで、多種にわたる外来種が生息している。その外来種が多摩川に与える影響は計り知れないものがあり10年ほど前から危機感を持っていた。

2004年の夏、多摩川で男の子が金魚の入った袋を持ち、泣きながら歩いていた。不審に思い声を掛けると、男の子は「面倒を見られないなら金魚をトイレに流す、とお母さんに怒られ金魚を捨てに来た」絶句だった。トイレに金魚を流すという思考は、私には無かつ

た。学校でも家庭でも「命は大切」と教えられているはずだが、人の都合で簡単に命を奪い去ることを、何とも思わない大人がいることが問題なのかも知れない。

悲しい運命の魚たちに、選択肢は少ない。多くは命を奪われる。運が良ければ里親が見つかり、生き延びることができる。里親が見つからなければ「きれいになった多摩川なら生きていけるかも」その思いから、飼いきれなくなった外来魚が多摩川に放流された。多摩川は日本で指折りの急流河川であるため、生物層は非常に脆弱である。そこに外来種が入り込めば、在来の魚たちはひとたまりもない。

そこで考えたのが「おさかなポスト」である。赤ちゃんポスト同様に、誰にも知られずに飼えなくなった魚を入れることができるイケスを、おさかなポストとした。口コミで広がった1年目は数十匹の魚が入れられたに過ぎなかった。新聞やテレビや雑誌などで取り上げられるとその効果は抜群で、驚いたことに1年で1万匹が入れられた。その多くは病気や奇形だったり、そのまま鑑賞魚にはならない魚達だった。自宅の水槽を総動員し、治療してから里親を捜した。名乗り出てくれた小中学校や高校、幼稚園、保育園、高齢者施設へ、小遣いで買い揃えた水槽一式を持っていった。

子どもたちには、どうして学校で飼うことになったのかを教えた。

最近では多摩川で見かける外来種が、減ったように感じる。しかし、おさかなポストには依然としてたくさんの魚たちが入れられる。一度飼育した生き物は、自然に返さないのがモラル。飼い始めた時の気持ちで最後まで育ててほしい。多摩川でしか生きられない、たくさんの命があることを、多くの人に知ってもらいたい。



おさかなポストでお預かりした魚たちは、公共の機関や学校、おさかなポストの会員さんに限りお渡ししています。

ポストイケスからの持ち出し、持ち帰りは魚病の危険性があります。魚病の感染を防ぐため、ポストイケスからの持ち出しは厳禁です。薬浴・消毒をして学校・老人ホームなどの機関、里親ポストの会員に限り、里親として育てていただいています。

ミドリガメや陸ガメなどの外来ガメは電話でご連絡下さい。ペットショップで購入したガメは、多摩川へ絶対に放さないでください。

おさかなポストの会 代表山崎 電話090-3209-1390





# 多摩川散歩

## ■多摩から発信! 緑のまちづくり■



NPO法人  
NPO birth (バース)  
事務局長 佐藤 留美

「まちの中に森がある!」。大学進学のため、仙台市から多摩地域に引っ越してきての最初のカルチャーショックは、まっ平らな土地に雑木林があることだった。住宅地の中に畑があり、無人野菜販売所があることも驚きだった。湧水の流れるお鷹の道、玉川上水の緑陰、雄大な多摩川、どこまでも続く丘陵地の連なり。地方人の持つ「東京＝高層ビルが林立する都会」というイメージはことごとくひっくり返されてしまった。

私は幼いころから昆虫が大好きで、一日中、虫と戯れていれば幸せ、という一風変わった女の子であった。一方、テレビでは米ソ冷戦のニュースが日常的に流れ、「なぜ人間はこんなに愚かなんだろう。核戦争が起こったら大好きな自然も失われてしまう」と絶望感を抱きながらも、自分は何をすべきかと悩んでいた。

そんな中で出会った多摩の自然が、自然と共存する人間の知恵から生まれた風景であることを知り、私は救われたような気持ちになった。雑木林の落ち葉をかいて、堆肥をつくり、田畑を耕す。その営みが、野草を増やし、カエルやトンボの住処をつくり、風景を彩る。「人間が手を入れることで、自然が豊かになるなんて、なんて素晴らしいんだろう!」けれど、そんな風景が、開発によりみるみる消えていく。林や田畑は、住宅や駐車場に変わっていく。考えてみれば私の住むアパートだって以前は雑木林だった。開発か保護かといった二者択一ではなく、人と自然の新しい共存のあり方を探す必要を感じた。



市民が守り育てる雑木林  
(小平市・コゲラの森)

「まちの中に森がある!」。大学進学のため、仙台市から多摩地域に引っ越してきての最初のカルチャーショックは、まっ平らな土地に雑木林があることだった。住宅地の中に畑があり、無人野菜販売所があることも驚きだった。湧水の流れるお鷹の道、玉川上水の緑陰、雄大な多摩川、どこまでも続く丘陵地の連なり。地方人の持つ「東京＝高層ビルが林立する都会」というイメージはことごとくひっくり返されてしまった。

大学卒業後、多摩地域での環境保全活動に加わる中で、自然を守るためには、人と自然、人と人とのつながりを創ることが一番の近道だと感じ始めた。同じ思いをもった仲間との出会いがあり、私たちは1998年にNPO法人「NPO birth (バース)」を設立した。「birth」とは、命を育むみどり、新たな時代の流れを生み出したいとの願いを込めてつけた団体名である。



市民による公園づくり  
ワークショップ(府中市)

同年にNPO先進地である米国・サンフランシスコのNPO研修へ参加した。米国では、「市民」が公園緑地や河川の環境を守り育む主役である。

その市民力を強力に下支えているのが、NPOである。自分たちもこのようなプロのNPOとなり、まちの緑と人のつながりを創ることで、人と自然が共存できる暮らしの環境を実現したい。

自分たちもこのようなプロのNPOとなり、まちの緑と人のつながりを創ることで、人と自然が共存できる暮らしの環境を実現したい。

そのような想いを胸に、緑のまちづくりの調査や環境パートナーシップ促進事業、愛知万博出展などの取り組みを進め、2006年より都立公園の指定管理を担うチャンスを得た。東京都が力点を置いていたのは市民との協働による公園づくりという、まさに私たちが目指す方向であった。力を発揮できるフィールドを得て、私たちの思いは次々に実現していった。管理している東京都立野山北・六道山公園(武蔵村山市)では、公園ボランティアが2006年度の68名から2009年度には3.7倍の247名に急増し、年間参加人数は5,000人を超える規模となった。「この自然を次世代に伝えよう」と同じ目標をもつ市民ボランティアは、雑木林や田んぼの手入れ、自然調査や文化の伝承など、さまざまな分野で生き生きと活動している。こうした活動が認められ、同公園は昨年10月の「都市公園コンクール(主催:社団法人日本公園緑地協会)」で国土交通大臣賞を受賞した。

私たちが次に目指すのは、公園管理で培ったノウハウを、「まち」単位に拡げていくことである。街中の小さな緑地や児童遊園、大きな公園や河川敷、農地や雑木林など、そこで活動する市民のネットワークを築くことで、人と自然が共存できる地域づくりに貢献したい。



里山春祭りで活躍するボランティア  
(武蔵村山市・都立野山北・六道山公園)

## 私と多摩川

### 水源より情報が湧く 「水の学校」



武蔵国分寺「水の学校」

高浜 洋平

私は普段サラリーマンですが、休日に地域資源を発信しようと始めた活動をご紹介します。私が住む国分寺には、野川（多摩川の支流）の源流があります。「日立中央研究所」や「お鷹の道」等に数箇所の湧水源があり野川を形成し小金井・三鷹・調布を経て二子玉川にて多摩川に合流します。お鷹の道の湧水は日本名水100選にも指定されています。また、1200年前の「武蔵国分寺」跡の発掘が現在も進行中であり、考古学的興味に溢れる街です。しかし、私は国分寺に住んで数年、こうした地域資源を知りませんでした。そこで、より多くの地域住民、都民に、この貴重な「宝物」を知ってもらえたらと、活動を始めました。



日本名水100選の湧き水

「史跡の駅 おたカフェ」「おたかの道湧水園」  
「武蔵国分寺跡資料館」が昨秋同時オープン

国分寺の観光名所「お鷹の道」沿い路上にて、3年前から来訪客に対する「おもてなし事業」という活動を実施しました。活動母体は、「東京経済大学・国分寺市地域連携推進協議会」、いわば、大学が地域にでていく組織体。「史跡の駅おたカフェ」は、おもてなし事業の発展系受け皿として空き家を改装して整備され、連携推進協議会が

- ①歴史・自然の展示発信
- ②トイレ休憩スペース提供
- ③地場産野菜の飲食提供
- ④国分寺名産グッズの展示販売等を行っています。



史跡の駅 おたカフェ

東京都国分寺市西元町1-13-6 / 電話 042-312-2878  
営業時間：9:00～17:00（月曜定休）

「水の学校」は水湧く場所から、歴史、自然、エコ、様々な情報が湧き出る、他にはない学校

前述のように国家レベルともいえる貴重な自然資源・歴史資源に恵まれる、そんな、水湧く場所にできた「史跡の駅おたカフェ」から、歴史、自然、水、エコ等各種分野の情報が湧きだす仕掛けとして、「水の学校」を企画しました。

お鷹の道、野川、国分寺崖線等を題材にしながら、各分野の専門家を招聘し、参加者との対話型のセッションを行います。専門家より授かった知識・知恵は、記録・蓄積するとともに、紙面やHP媒体での発信活動も行います。東京大学建築学科の藤森照信教授、小説家の椎名誠先生、ソトコト誌の黒一三編集長、ユニバーサルデザイン研究所の赤池所長、サントリー水科学研究所の芦刈所長をはじめ、多岐に渡る専門家を招聘します。

（詳細は [http://ota-cafe.com/mizu\\_s.html](http://ota-cafe.com/mizu_s.html) に掲載）

情報が、水の源に結集し、そこから世間に発信されていく、文化的ホットスポットの創造を目指します。



水の学校風景

生徒、専門家同士の繋がりを生み、本学校から市民活動やプロジェクトの湧出を目指しています

生徒のことを「ミズモリ＝（水を守る番人）」と名づけ、能動的に活動を立ち上げることを期待を込めました。2009年11月より毎月1回セッションを行っていますが、講師とミズモリは顔が見える、対話ができる仕組みとし、交流会も開催し、今後は、遠足や発表会等により横の繋がりも醸成します。受身的に聞く講演会ではなく個々人がアクションできるコミュニティをつくっていかうと思っています。早速、ミズモリから環境映画上映会の提案などがあり、アクションが芽生えつつあります。



水の学校風景

## 歴史／多摩川 大菩薩峠は交易の十字路



多摩川源流研究所  
所長  
中村 文明

### 峠の無人交易

日本には、いかほどの峠があるのだろうか。集落と集落、流域と流域を結び、人々が行き交い、物資が運ばれ様々な文化が伝播したのであろう。我が多摩川源流には、我が国で三番目に有名な峠がある。それは、大菩薩峠である。

大菩薩峠を越える青梅街道は、甲州街道の裏街道の役割を果たし、当時、交通量も多かった。甲州の塩山・萩原口と小菅村の余沢に口留番所が置かれ、「入り鉄砲と出女」を取り締まった。しかし、大菩薩峠の昇降八里の道は険しく、人家もなく、物資を運ぶ苦勞が大きかったので、大峰荷渡しと呼ぶ無人の荷物取引の風習があった。当時の様子を甲斐国誌は次のように記述している。

「大菩薩峠は小菅と丹波より山梨郡の萩原へ出る山道なり。昇降八里、峠に妙見大菩薩社二つ、一つは小菅に属し、一つは萩原に属す。萩原より米穀を小菅の方へ送るものも峠まで持ち来たり、妙見社の前に置いて帰る。小菅の方より荷を運ぶものも亦峠に置き、彼の萩原より送るところの荷物を持ち帰る。此の間数日を経ると雖もすべて盗みたるものなし。」



源流古道（石丸峠付近）

取り引きされた物資に関しては、小菅大菩薩道を利用して小菅から木炭、コンニャク、経木、山葵が、萩原から米、酒などであったという。萩原は甲斐を代表し、小菅は武蔵を代表する玄関口の役割を果たしたといえよう。

### 土室・小金沢の御巢鷹山

日本では古来、将軍家や有力大名によって鷹狩りが行われていた。鷹は、鷹狩りの際に放鳥に用いられたのである。その鷹の雛を育てる場所が御巢鷹山である。江戸時代、甲州は天領（幕府直轄領）であったから各地に御巢鷹山が設けられた。甲斐国誌によると、小菅に繋がる相模川水系の土室・小金沢には、御巢鷹山が十六カ所あったという。うち十二カ所を小菅が、残り四カ所を西原が守っていた。小菅には、御鷹見と称する村人が十人いて、二人一組になって山中を巡回し、鷹の様子を観察した。土室谷のうち、サギチョウ尾、クリノ木尾、シラヒソ油尾、タタビノ尾、ノボリ尾、戸沢ノ尾の六ヶ所、小金沢山のうち、押払沢ノ尾、大カンバ尾、エンマ小尾ノ尾、ナラノ木尾、石小屋ノ尾、クラカイ場ノ尾の六ヶ所を小菅が管理した。四百年も前から小菅の衆は土室・小金沢に、小菅大菩薩道を利用して入山することが許されていたと言える。



石丸峠から熊沢山、妙見の頭を望む



天狗の頭から狼平を望む

## インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等及び東急グループの3月から6月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### ☆ 美しい多摩川フォーラム

- 第2回美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展&美しい多摩川の四季・淡彩スケッチ原画展：青梅市立美術館（3月9日～14日）
- 多摩川環境セミナー：マルタ遡上観察会・多摩川兵庫橋（3月21日）
- 桜コンシェルジュ展：立川市国営昭和記念公園花みどり文化センター（3月18日～4月8日）
- 多摩川夢の桜街道・桜の札所巡り事業
  - ①3月22日～4月11日：大田の桜札所巡り（クイズラリー）～大田区、大田観光協会、東急電鉄、京急電鉄と共催
  - ②4月2日：羽村・福生～JR東日本、西武鉄道、多摩モノレールと共催
  - ③4月3日：池上本門寺（桜の語り／平野啓子氏）～大田区、大田観光協会、東急電鉄、京急電鉄と共催
  - ④4月10日：あきる野の古寺～美しい多摩川フォーラム、サンケイリビングと共催
- 美しい多摩川フォーラム・平成22年度総会（5月8日）
- 多摩川一斉水質調査（6月6日）
 

（問合せ）美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内） 担当 宮坂/土方/及川  
TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4646 E-mail forum@tama-river.jp http://www.tama-river.jp

### ☆ がさがさ水辺の移動水族館

- ガサガサ水辺の移動水族館
  - ①3月6日（土）：栃木県藤岡町渡良瀬遊水池会館・アクリメーションセンター（10時～ 参加費無料）  
きれいになった多摩川の紹介や移動水族館、ふれあいタッチプール、紙芝居、投網うち体験、ウナギつかみ取り、川魚試食会など、生き物や伝統漁法を渡良瀬川や遊水池流域の親子に学んでもらいます。多摩川から子ども達が多摩川大使として出かけます。どなたでも自由にご参加頂けますので直接会場において下さい。  
（共催） 渡良瀬漁業協同組合・藤岡市・藤岡市教育委員会
  - ②3月20日（土）：イオンモール川口グリーンシティー（10時～ 参加費無料）  
多摩川と水都彩の国埼玉とのコラボレーションです。きれいになった多摩川の紹介や移動水族館、ふれあいタッチプール、紙芝居など、埼玉と多摩川の水辺の生き物を親子に学んでもらいます。どなたでも自由にご参加頂けますので直接会場において下さい。  
（主催） イオンモール川口グリーンシティー
- 魚類春の観察会－魚類調査
  - ①3月14日（日）：多摩区布田 二ヶ領上河原堰下（14時～ 参加費無料）  
春の早い時期から魚たちは産卵の準備を整え始めています。三沢側の河口にたくさんの魚たちが集結します。たも網や投網で捕まえて魚の観察をします。どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は下記のメールまでご連絡下さい。 RiverRanger777@gmail.com  
（協力） 川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連 川崎市遊技場組合
- 日本飼育技術学会 講演・シンポジウム（多摩川における野生動物の保全・保護／生物多様性条約第10回締約国会議）
  - ①3月15・16日（月・火）： 東京都立園芸高校（9時30分～）  
生物多様性条約第10回締約国会議COP10を絡め、多摩川の種の多様性や外来魚について講演します。どなたでも自由にご参加頂けますが、招待状が必要です。下記メールへ前日までにご連絡下さい。 RiverRanger777@gmail.com （主催） 日本飼育技術学会
- 魚類観察会
  - ①マルタまつりと桜まつり（4月4日（日）：二ヶ領宿河原堰下 せせらぎ館の下10時30分～ 参加費無料）  
桜の花が満開になる頃、瀬ではバシャバシャと大きなマルタの産卵を目の前で見られます。同時に釣りも楽しめます。どなたでもご自由に参加頂けますが、参加希望者は下記のメールまでご連絡下さい。 RiverRanger777@gmail.com （協力） 川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連、川崎市遊技場組合
  - ②ガサガサで遊ぼう
    - ・4月11日（日）： 多摩区布田 二ヶ領上河原堰上14時～ 参加費無料
    - ・4月18日（日）： 多摩区布田 二ヶ領上河原堰上14時～ 参加費無料
    - ・4月25日（日）： 多摩区布田 二ヶ領上河原堰上14時～ 参加費無料



魚たちは産卵の準備を整え始めています。中州の島周りにはたくさんの魚たちが集結します。たも網や投網、定置網で捕まえて魚の観察をします。どなたでも自由にご参加頂けますが、参加希望者は下記のメールまでご連絡下さい。

RiverRanger777@gmail.com (協力) 川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連、川崎市遊技場組合

### ③春のアユまつり アユ遡上観察会

- ・4月29日(木—祝日緑の日)：川崎市中原区調布取水堰下 東横線鉄橋上 13時～ 参加費無料
- ・5月5日(水—祝日こどもの日)

：川崎市多摩区二ヶ領宿河原堰下せせらぎ館の下の魚道 10時30分～ 参加費無料  
今年も海からアユが遡上してきました。10cmにも満たない小さなアユ達ですが、元気いっぱい堰や魚道を登ります。堰、魚道の傍らから、頑張るアユにエールを送ります。堰では水中カメラを使いテレビで遡上するアユをリアルタイムで観察できます。紙芝居「アユの一生」やアユの試食会などもあり、盛りだくさんのイベントです。どなたでも自由にご参加頂けますので、直接会場においで下さい。

(協力) 川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連、川崎市遊技場組合

### ④春のアユまつり バケツリレー救出作戦～アユ放流体験

- ・5月中～6月初予定 時間未定 4～5回予定(小学校2～3回、一般2回)
- 場所 ①、②川崎市多摩区二ヶ領宿河原堰上 水道橋下貸しボートのんきや前 参加費無料

③、④川崎市多摩区上ヶ領宿河原堰上 京王線鉄橋下

堰を上れない稚アユを保護し、バケツで堰の上流へ放流します。上流へ登るアユほど大きく育つと言われています。詳細が決まり次第ホームページで告知します。 <http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/>

(協力) 川崎河川漁業協同組合環境部、川崎いなおロータリークラブ、川崎市老人クラブ連合会多摩区老連 川崎市遊技場組合

(問合せ) がさがさ水辺の移動水族館館長 山崎充哲

TEL 044-933-3220 携帯 090-3209-1390 メールアドレス mlc54407@nifty.com

## ☆ 財団法人 世田谷トラストまちづくり

○野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

(3月28日、4月24日、5月30日いずれも午前10時～正午 ※要申込)

○森のカフェ・桜まつり～世田谷トラストまちづくりビジターセンター (野川緑地広場内)

(3月28日：午前10時～午後3時 ※申込不要)

○バードウォッチング～世田谷区内の多摩川 (6月12日：午前9時30分～11時30分 ※要申込)

(問合せ) (財) 世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL 03-6407-3311 FAX 03-6407-3319 財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

## ☆ GeoWonder 企画 むさしの化石塾

○「岸辺の楽校」 テーマ：多摩川の地球の窓を開こう！化石から古環境を学びます。

①3月27日(土)「250万年前の植物・昆虫化石」清川町中央高速高架下北浅川左岸土手上 13時30分集合

②4月24日(土)「アキシマクジラを訪ねて」昭島市大神クジラ公園鉄橋下左岸 13時30分集合

③5月22日(土)「170万年前の昭島市福島町の多摩川で巣穴化石に学ぶ」13時30分小宮駅集合

④6月26日(土)「狭山層メタセコイア樹林化石再考」武蔵村山市かたくり温泉下車・歴史民俗資料館前 13時集合

日程と場所は天気状況により変更します。詳細は化石塾直又は化石塾ブログ最新情報でご確認ください。

※持ち物 軍手 発掘道具(ハンマー・タガネなど)

※雨天時は、むさしの化石塾事務所「化石の館」で室内作業に切り替えます。

※はじめての一般参加は、資料代込1000円です。

※塾生及び会員参加は月謝代に含まれますので無料です。

(申込・問合せ) むさしの化石塾事務所「化石の館」(雨天時室内作業現場) 担当：福嶋まで

FAX：042-567-1095 携帯：090-1769-8020 Web 申込 E-mail：geo@extra.ocn.ne.jp

## ☆ 東急グループ

○第71回 WE DO ECO 東急沿線グリーンングキャンペーン 緑のプレゼントを開催：4月18日(日)

(問合せ) 詳細は3月20日頃、ホームページに掲載します。 <http://www.tokyu.co.jp/group/>

東急お客様センター TEL 03-3477-0109 FAX 03-3477-6109

〈営業時間〉月～金 8：00～20：00 土日祝 9：30～17：30

# 財団事業年報特集

## 1 事業日誌（2009年1月～2009年12月）

- 1月15日 平成21年度助成研究の公募を締め切る（応募件数37件）
- 1月22日 第399回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
—第57回理事会、第53回評議員会開催について ほか
- 2月27日 第400回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
—第51回定時選考委員会開催について ほか
- 3月1日 財団だより“多摩川”第121号（事業年報特集号）発行  
—巻頭言（元環境大臣・衆議院議員 小池 百合子）  
—特別寄稿「The Pilot Forest, Ome-小さな水資源での壮大な取り組み」  
（株式会社多摩農林 阪下 忠浩）
- 3月10日 第51回定時選考委員会を午後1時30分より、財団事務所会議室で、  
選考委員8名出席のもと開催  
—新規研究11件（学術研究6件、一般研究5件）  
継続研究9件（学術研究6件、一般研究3件）をそれぞれ採択
- 3月24日 第57回理事会を午前9時より南平台東急本社にて開催  
第53回評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催  
—平成21年度事業計画及び同収支予算の承認 ほか
- 3月30日 第401回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
—とうきゅう環境浄化財団社会貢献学術賞選考規程について ほか
- 4月9日 継続研究2件、研究進捗状況についてヒヤリングを実施
- 4月20日 第402回常任理事会を午後4時から南平台東急本社で開催  
—第58回理事会、第54回評議員会議案について ほか
- 5月4日 山梨県小菅村主催「第23回多摩源流祭り」を後援
- 5月12日 第54回評議員会を午後1時30分より南平台東急本社にて開催  
—平成20年度事業報告、収支決算の承認、理事15名・監事2名の選任  
第58回理事会を午後2時30分より南平台東急本社にて開催  
—平成20年度事業報告、収支決算の承認  
—評議員14名の選任並びに会長・常務理事・選考委員9名の選任  
—第51回定時選考委員会採択研究の承認  
—顕彰事業（社会貢献学術賞）の実施と選考委員会規定の承認
- 6月1日 財団だより“多摩川”第122号発行  
—巻頭言「多摩川」（アルピニスト 野口 健）  
—特別寄稿「多摩さくら百年物語フォーラム」  
（多摩さくら百年物語フォーラム運営委員長、読売新聞立川支局長 辻 勉）
- 6月1日 環境学習副読本「多摩川へいこう」を12,000部増刷し、多摩川流域の小学校115校に  
～7月31日 12,904部贈呈

- 6月23日 研究助成成果報告書発行（CD-ROM・研究概要小冊子添付）  
 ー学術研究第37巻（8件収録）、一般研究第30巻（7件収録）を各々制作し、多摩川流域の図書館、教育委員会、国会図書館、首都圏の主な大学図書館等233施設へ贈呈
- 6月25日 第403回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
 ー平成21年度研究助成金贈呈式について ほか
- 7月17日 平成21年度助成金贈呈式を午前11時30分より、渋谷エクセルホテル東急で開催  
 ー学術研究者6名、一般研究5名並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約60名が出席
- 7月30日 第404回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
 ー6月分決算について
- 9月1日 財団だより“多摩川”第123号発行  
 ー巻頭言「日本は幸運な国ーそれを忘れてはいけない」  
 （山形弁研究家、美しい多摩川フォーラム副会長 ダニエル カール）  
 ー特別寄稿「東京のみどり1990-2006年の増減ー区市町村別に見た緑被地の変遷」  
 （日本自然保護協会理事長、千葉大学名誉教授 田畑 貞寿）
- 9月1日 （社）国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成21年度の助成が承認
- 9月17日 第405回常任理事会を午後前10時から南平台東急本社で開催  
 ー平成22年度調査・試験研究助成の公募について ほか
- 9月26日 千葉大学大学院医学研究院主催 市民講座「水の安全性と健康管理」を後援  
 （会場：八王子市あったかホール）
- 9月30日 第1回社会貢献学術賞選考委員会を午前10時より、財団事務所会議室で開催  
 ー国際連合大学特別学術顧問、放送大学教授、環境省中央審議会会長 鈴木 基之氏に決定
- 10月29日 第406回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
 ー上半期決算、下半期収支見直し及び平成21年度決算予想について ほか
- 11月16日 平成21年度第1回社会貢献学術賞贈呈式を午後2時より、セルリアンタワー東急ホテルで開催  
 ー受賞者（鈴木基之 氏）並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約30名が出席
- 11月27日 第407回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
 ー10月分決算について
- 12月1日 財団だより“多摩川”第124号発行  
 ー巻頭言「お魚に会いたい」  
 （東京海洋大学客員准教授、お魚らいふコーディネーター、  
 環境省地球いきもの応援団 さかなクン）  
 ー特別寄稿「市民が創る川の文化ー横浜市谷本川（鶴見川）・市民活動の紹介」  
 （あおばく・川を楽しむ会事務局長 渡利 博）
- 12月8日 野川源流と国分寺崖線の現地視察（日立中央研究所～お鷹の道～武蔵国分寺跡）
- 12月22日 第408回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催  
 ー11月分決算について ほか

## 2 研究助成事業

当財団では、平成21年度研究助成金贈呈式を、7月17日(金)、渋谷の渋谷エクセルホテル東急で開催し、本年4月を開始月とする新規の助成研究11件に助成金を贈呈致しました。継続研究9件も承認されていますので、本年度は20件を助成していることになります。ここに全助成研究をご紹介します。(継続研究および6月にCD-ROMと概要小冊子が完成し多摩川流域の図書館等に配布、贈呈した研究については課題と研究者名のみ掲載)

### <新規助成研究>

#### 学術研究

#### 多元素同位体分析による多摩川上流・中流・下流域の堆積物と河川水の供給源の解明と汚染状況の把握



鹿園 直建 (しかぞの なおたつ)  
慶應義塾大学理工学部 教授

共同研究者

大友 一夫 慶應義塾大学大学院

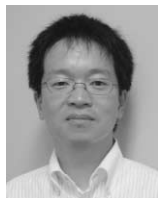
Shail Sharmin 慶應義塾大学大学院

K.M.Mohiuddin 慶應義塾大学大学院

中野 孝教 京都大学環境科学研究所 教授

これまでに、多摩川の水質に関する研究は多くなされてきた。この水質を決める要因として、自然要因と人為要因がある。人為要因として汚染があげられ、自然要因として地質(岩石)、生物の影響があげられるが、この自然要因に関する研究例は少ない。一方、堆積物に関する研究例は大変少なく、若干の研究例はあるが、多摩川上流、中流、下流域にわたっての系統的研究はなされていない。この堆積物組成も自然要因、人為要因があるが、これらの要因、起源の解明をめざした研究はなされていない。そこで、本研究においては、多摩川上流、中流、下流域の堆積物と河川水の供給源の解明と汚染状況の把握を行う目的で、堆積物と河川水の系統的サンプリングと化学分析(主成分、微量成分、同位体)を行う。特にこれまでなされてこなかった多元素同位体分析を行うことによって、上記目的を達成したいと考えている。そして、本研究手法が多摩川のみならず、わが国の他の河川の地球化学的、環境科学的調査研究の基礎的研究となることを期待している。

#### 多摩川上中流の森林流域における土壌浸透能とその空間分布を考慮した降雨流出予測に関する研究



五味 高志 (ごみ たかし)  
東京農工大学大学院農学府国際環境農学専攻

共同研究者

宮田 秀介 東京農工大学農学府産学官連携研究院

間伐遅れなどの森林管理不備により林床が裸地化し、土壌浸透能の低下、表面流や土壌の表面侵食の発生が指摘されている。多摩川上中流域においても、ヒノキ・スギなどの人工林管理の必要性とともに、森林管理と水土保持機能の関係の評価が求められている。本研究では、林床植生被覆量に伴う土壌浸透能の空間分布を考慮した分布型流出モデルにより、流域の流出解析を行い、森林流域の降雨流出現象の解明と理解を深め、森林管理による植生回復による浸透能や降雨流出量変化の予測を行う。森林流域において水流出過程に影響およぼす浸透能の空間分布の測定することにより、斜面から流域スケールにおける水流出

や植生被覆量と浸透能の関係を明らかにし、流域の降雨流出をシミュレーションする。人工林流域における森林管理方法(間伐や植生回復)とそれにともなう森林の水流出量の評価をすすめ、持続的な流域資源管理方法の提言を行う。

#### 多摩川における亜酸化窒素生成細菌の生態と窒素動態における役割の解明



多羅尾 光徳 (たらお みつなり)  
東京農工大学農学部 准教授

本研究では多摩川流域において亜酸化窒素の生成に関与している細菌群の生態を明らかにすること、およびそれらの細菌群が多摩川流域における窒素動態や亜酸化窒素生成にどのような役割を果たしているかを明らかにする。とうきゅう環境浄化財団の研究助成ではこれまで、多摩川流域における窒素循環や亜酸化窒素の発生機構に関する研究が様々に行われ、多くの成果をあげてきた。しかしながら、それらの研究は窒素の流れや亜酸化窒素の生成という、いわば「結果」に注目していた。そのいっぽう、窒素循環・亜酸化窒素生成の担い手、すなわち「原因」である微生物群がどのような生態や亜酸化窒素生成特性を有しているかにまでは十分に踏み込めていなかったと申請者は考えている。本研究では特に亜酸化窒素生成細菌に焦点を当てることにより、多摩川流域の窒素動態・亜酸化窒素生成のメカニズムを、その原因から解明することを試みるものである。

#### 多摩川流域に植栽されたサクラ類の新たな腐朽病害対策の確立に関する研究



福田 健二 (ふくだ けんじ)  
東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

共同研究者

松下 範久 東京大学 准教授

渡辺 直明 東京農工大学 助教

清水 淳子 東京大学 技術職員

多摩川流域には、上流域の奥多摩湖畔から下流域の河川敷まで、多くのサクラが植栽され、多摩川から取水される玉川上水には名勝小金井桜がある。これらの桜並木などにおいて、腐朽病害によるサクラの衰退や倒木が問題となっている。従来、罹病したサクラは、伐採し若木へ植え替えることが多かったが、名勝小金井桜をはじめとする古木においては、罹病木を治療しながら大切に育てることが求められている。そこで、本研究においては、多摩川沿いにおける桜並木の景観保全のために、サクラの植栽状況の把握、健康状態(樹勢)の診断、腐朽病害の



発生生態の解明を行うとともに、主要な腐朽菌のDNAマーカーを作出して、それらの菌の系統及び樹体内分布、感染経路等を解明する。この結果を受けて、新たな腐朽病害対策を提言することを旨とする。

## 多摩丘陵に残存する里山地域の景観3次元可視化モデル (VLU) の開発とその応用



輿水 肇 (こしみず はじめ)

明治大学農学部 教授

共同研究者

菊池 佐智子 明治大学農学部 客員研究員

景観設計の分野では、景観予測システムや仮想現実感システムが開発され、植物成長に伴う景観変化の3次元的表现が可能となっていることから、農業関係者、行政、ボランティア、都市住民、研究者など異なる視点から里山に興味関心を持ち、活動を展開する主体間の里山のイメージ共有には、既往の景観生態学的な地理情報と景観工学的な意識評価の統合が必要と思われる。

助成対象とする2009年度は、多摩川流域の黒川地域に適用した微地形と植生の有意な組み合わせ (Landscape Units: 以下LU) に視覚的価値を付加し、景観生態学と景観工学の双方を同時に表現できる空間単位VLU (Visual Landscape Units) の開発、提示に向けた作業を進める。そして、里山の環境学習およびその保全と維持管理に寄与する里山の環境動態把握手法として確立することが、本研究の最終的な目的である。

## 多摩川流域環境保全データベース検証用

### WebGIS構築に関する調査研究



宮林 茂幸 (みやばやし しげゆき)

多摩川源流研究所運営委員長

東京農業大学地域環境科学部 学部長

共同研究者

菅原 泉・中村 文明・石坂 慎吾・中川 徹

多摩川では、健全な水循環を確保するために源流から河口までの森と川と海の繋がりを重視した活動が展開されており、よりよい自然環境を維持・整備するために流域管理や流域連携が大きな課題になっている。今回の調査研究では、流域連携や情報ネットワーク構築を通して、多摩川流域の自然環境保全活動に関する情報をWebGISを活用して双方向で共有できるシステム作りである多摩川フィールドミュージアム構想の整備に取り組む。

市民活動の活発な多摩川に源流から河口までの領域を網羅した多摩川流域ネットワークが誕生し、県境を越えた新しい視点の流域連携が図られつつある。この利点を生かし、「環境データベース」に関する情報ネットワークを構築し、情報の安定的な収集、蓄積が図れる協力連携体制の確立を図り、流域全体の市民による情報の共有化を目指していく。また、今年度は、多摩川の一斉水質調査に関するデータ及びとうきゅう環境浄化財団の成果物に関するデータベース化を実施する。

## 一般研究

### 日本の近代化を支えた多摩川の水



小坂 克信 (こさか かつのぶ)

日野市立日野第四小学校 教諭

江戸の街は、明治維新を経て日本の首都東京として、欧米の都市をモデルに近代的な煉瓦などによって建築された。これに比べ、水道は非衛生的な江戸時代からの上水のままであったと記されることが多い。しかし、多摩川から取水した上水の水は、明治政府が殖産興業の一環として催した内国勸業博覧会々場の飲料水として供給されたし、富国強兵策の一環として行った火薬製造用の水車を動かした。また、企業の工業用水としても利用された。しかし、従来の研究では、近代水道によって日本の近代化が図られたような誤解を生じかねない。そこで、近代水道以前、多摩川の水はどのように首都東京と周辺の近代化を支えてきたのか、その歴史を明らかにしたい。具体的には、次の2点を中心に調査・研究する。

①国家の政策を支え近代化を進めていく過程で、多摩川の水がどのように使用されたのか。事例として目黒区や板橋区の火薬製造所、印刷局などを取り上げる。

②会社など企業がどのように多摩川の水を利用したのか。事例として抄紙会社やエビスビールなどの企業を取り上げる。

### 多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境について



比田井 民子 (ひだい たみこ)

(財) 東京都スポーツ文化事業団

東京都埋蔵文化財センター

共同研究者

上條 朝宏 東京都埋蔵文化センター

鈴木 次郎 かながわ考古学財団 副部長

畠中 俊明 かながわ考古学財団 主査

本研究では日本のなかで、日本のなかで有数の旧石器時代遺跡がある多摩川流域の武蔵野台地の後期旧石器時代初頭の遺跡を取り上げ、温暖期であったと言われる第四紀学上のステージ3といわれる時期における地形変化、水位の変動等がこの武蔵野台地における初期人類文化が営まれる契機となったとの仮説を立て、土壌学、年代学などの自然科学からの検討と当時の遺物の技術的検討を通じてその内容を解明していこうとするものである。

今回は武蔵野台地と共通する富士山系火山性降下物があることにより、土壌学、年代学的比較が可能であり、後期旧石器時代遺跡にも恵まれている相模野地域も取り上げ、初期人類文化成立の背景を探っていきたい。

## 多摩川河口域における体験学習支援活動 —多摩川干潟プロジェクト5周年記念事業—



**小野 紀之** (おの のりゆき)  
特定非営利活動法人地域パートナーシップ  
支援センター 理事長  
共同研究者  
柴崎 勉 音楽プロデューサー

大田区の小学校では、2002年8月のアゴヒゲアザラシ“タマちゃん”の出現をきっかけに多摩川での野外体験学習が積極的に行われるようになりました。しかしながら、その支援の多くがボランティアに依存する部分が多く、新たな人材の育成や教材の確保もままなりません。

また、子どもたちによって発見された多摩川の魅力や身近な生き物たちの数々、そして何よりも多摩川が与えてくれた子どもたちの笑顔などその成果のほとんどが学校内の発表にとどめられ、教育環境の一つとしての多摩川の価値や都会に残された貴重な自然環境の現状などもほとんど一般には知られていません。

これまで約10年にわたって続けられてきた学習支援活動、そして2005年から新たに体系的に実施されてきた“多摩川干潟プロジェクト”の5周年記念事業として、本年11月15日開催の「多摩川ふれあいコンサート&アート展」など総合的な活動を通じて、さらなる市民参加と学習支援の充実を図ることを目的にしています。

## 多摩川における川と地域の交流拠点に関する調査・研究



**山道 省三** (やまみち しょうぞう)  
特定非営利活動法人多摩センター 代表理事

多摩川をはじめ全国の河川で、近年、川と地域の交流拠点がさまざまなスタイルで設置されて来た。こうした施設は、国や自治体が建設、設置し、多くの場合、地域住民がその運営に協力する形態が多かった。ところが、ここ数年、税金の無駄使いや河川管理者の広報費支出への社会的批判が高まり、各地で運営費の削減や施設の廃止が行われつつある。

本調査・研究は、そうした状況のなか、多摩川における公設民営型の交流施設の実態及び運営上の課題を調査するとともに、全国の典型的な同様の施設の実態を調査し、交流施設を通じた川と地域の関係、役割について研究し、より健全かつ有意義な活動、運営のあり方を検討するものである。

## 多摩川水系における魚類の生息調査を活用した環境教育の普及および啓蒙



**奥山 文弥** (おくやま ふみや)  
美しい多摩川フォーラム

水の大切さ、川の大切さを教えるために自然科学教育が必要となりますが、一方的に知識を与えても、一過性であって、継続的な効果は期待できません。

また、環境を科学的にとらえたり認識することの重要性に意識が向きがちですが、一般の方に興味を持っていただくためには、一つのテーマに特化した研究よりも、社会的、歴史的な視野を持って環境について考えていくことの重要性も忘れてはなりません。私たちは多摩川の魚という点に着目し、その魚の生息調査を行います。その捕獲手段に最も手軽な「釣り」を選びました。

生態系を難しく考えないで、体験を通じて魚が釣れる理由を川から学べば、なぜ?もしかして?という科学の基本が自然に身についていくことでしょう。

そしてその記録を、より多くの国民に知っていただくために出版という形を取って発表し、未来の手引書として役立てたいと考えています。この研究が多摩川の水圏環境リテラシー(総合的に理解する能力)の一端を担う前例となることを狙っています。

## <継続助成研究>

### 学術研究

### 分子生物学的手法を用いた多摩川河口域の細菌群集モニタリング

今田 千秋 (いまだ ちあき)

東京海洋大学大学院 教授

### 多摩川流域に生息する魚類の遺伝子情報に基づく水域ネットワークの保全計画に関する研究

西田 一也 (にしだ かずや)

東京農工大学農学部水資源計画学研究室 研究員

### 多摩川生息魚類の腸内および周辺環境水の細菌叢に及ぼす化学物質の影響

浦野 直人 (うらの なおと)

東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 教授

### 多摩川における“ツル植物”の繁茂が河川生態系に及ぼす影響の解析・評価と対策指針の検討

佐々木 寧 (ささき やすし)

特定非営利活動法人河川生態市民モニタリング研究会 代表理事

**多摩川に集う人の癒し効果：ストレス緩和調査に基づく多摩川に関わる自然保護活動**

杉田 克生 (すぎた かつお)

千葉大学教育学部 教授

**音や音声を活用した多摩川環境学習システムのプロトタイプに関する研究**

生田 茂 (いくた しげる)

大妻女子大学社会情報学部 教授

**一般研究**

**水害防備林の立地と自律的水制機能発達に関する定量的評価と伝統的治水工法の変容**

長尾 朋子 (ながお ともこ)

学校法人東京女学館中学・高等学校 教諭

**西暦2010年の多摩川を記録する運動**

横山 十四男 (よこやま としお)

特定非営利活動法人多摩川センター 元代表

**多摩川下流都市における谷戸の実際**

**～生態学的現状と資源的展望～**

長谷川 友紀 (はせがわ ゆうき)

東京都市大学付属高等学校 在学中

**一研究助成成果報告書収録の研究一**

学術研究第37巻8件および一般研究第30巻7件の研究助成成果報告書が完成し、6月23日から多摩川流域の図書館、大学、教育委員会等233施設に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

**学術研究**

**No.271 多摩川で回復したカジカ个体群の系統分類に関する研究**

糸井 史朗 (いとい しろう)

日本大学 生物資源科学部 助手

**No.272 多摩川流域における工業的土地利用の変化・機能転換と流域環境整備の課題**

松原 宏 (まつばら ひろし)

東京大学大学院 総合文化研究科 教授

**No.273 多摩川沿川地域におけるオープンスペースと建築景観の実態に関する調査研究**

—特に建築物による眺望遮蔽の現状と河川の景観資源価値への影響や住民意識について—

進士 五十八 (しんじ いそや)

東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授

**No.274 歴史的・生態的価値を重視した水辺都市の再生に関する研究**

—日野の用水路網の保存・回復に向けた市民的な取り組みをケースとして—

陣内 秀信 (じんない ひでのぶ)

法政大学大学院 エコ地域デザイン研究所 所長

**No.275 多摩川水系飲用水に関する市民コーディネータ育成アカデミーの設立**

—河川水と水道水の連動的水質悪化の検証と原因究明に関する中流域市民との共同調査—

鈴木 信夫 (すずき のぶお)

千葉大学大学院 医学研究院 教授

**No.276 多摩川における雨天時に流出する粒状有機物の起源と特性の評価**

春日 郁朗 (かすが いくろう)

東京大学大学院 工学系研究科 助手

**No.277 多摩川水系における落葉食河川底生動物の種多様性に及ぼす河川環境要因の影響解析**

加賀谷 隆 (かがや たかし)

東京大学大学院 農学生命科学研究科

**No.278 多摩川水系に侵入した外来動物『フロリダミズヨコエビ』の分布・拡散の現状と生態系への影響予測**

倉西 良一 (くらにし りょういち)

千葉県立中央博物館 環境科学研究科 上席研究員

**一般研究**

**No.174 住民の目で見つづけた多摩川の35年—蓄積した写真資料等による多摩川の自然環境の変遷を解明する研究—**

柴田 隆行 (しばた たかゆき)

多摩川の自然を守る会 代表

**No.175 みんなでつくる水循環市民プラン**

—市民による市民参加型調査—

佐藤 節子 (さとう せつこ)

くにたち水の市民調査会

**No.176 多摩川河床に見られる下部更新統上総層群の長鼻類・偶蹄類足跡化石群の分布調査**

—及び足跡化石群の露出から消滅までの経過と保存の検討—

福嶋 徹 (ふくしま とおる)

GeoWonder 企画むさしの化石塾 代表

**No.177 玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査**

佐藤 方博 (さとう まさひろ)

特定非営利活動法人生態工房 理事

**No.178 八王子（浅川水系）市内の用水路の通水システムと水利用形態の実態調査および、保全、活用にむけた可能性の研究**

須藤 訓平 (すどう くんぺい)

多摩美術大学 環境デザイン学科 研究員

**No.179 鯉川に生息するゲンジボタルの発生とその生活環境の研究**

浅原 俊宏 (あさはら としひろ)

自然の学校 校長

**No.180 地域の食生活を支えた水車の技術—野川を中心に—**

小坂 克信 (こさか かつのぶ)

八王子市立第八小学校 教諭

**3 第1回「とうきゅう環境浄化財団社会貢献学術賞」贈呈式を開催**

平成21年11月16日（月）、セルリアンタワー東急ホテルにて、

「とうきゅう環境浄化財団社会貢献学術賞」は、本年8月、財団が創立35周年を迎えるにあたり、わが国の学術振興に資することを目的として設立した記念事業です。日本の環境分野において、学術的、社会的に特に顕著な業績（調査研究、科学技術の発展、行政施策、実践活動など）を挙げた研究者を表彰いたします。

第1回となる今年度は、国際連合大学特別学術顧問、放送大学教授ならびに環境省中央環境審議会会長の鈴木基之氏に、「とうきゅう環境浄化財団社会貢献学術賞」を授与いたしました。

受賞者のプロフィールならびに受賞理由は以下のとおりです。

■受賞者プロフィール■

鈴木 基之（すずき・もとゆき）

- 1968年 東京大学 大学院工学系研究科 博士課程終了
- 1984年 東京大学 生産技術研究所 教授（2001年まで）
- 1998年 国際連合大学 副学長（2003年まで）
- 2003年 国際連合大学 特別学術顧問、放送大学 教授
- 2005年 環境省中央環境審議会 会長

■受賞理由■

同氏の研究対象領域は、環境技術開発、環境のモデル化、バイオアッセイ（生物検定法）など。現在は特に、「ゼロエミッション（排出を当たり前とする産業モデルからの転換）」と持続可能な社会の実現に向けた研究に従事している。研究の推進にあたり、文部省科学研究費重点領域代表、特定領域研究代表、学術審議会企画部会専門委員など各代表、委員ならびに環境省中央環境審議会会長を歴任。長年にわたる環境科学、環境技術への学術的な貢献、環境行政推進への寄与は絶大であり、本賞受賞者としての条件を十分に満たす。



#### 4 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200団体以上あるとされています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。（順不同）

NPO法人・任意団体名	URL
NPO法人 多摩川エコミュージアム	<a href="http://www.seseragikan.com/">http://www.seseragikan.com/</a>
NPO法人 海辺つくり研究会	<a href="http://homepage2.nifty.com/umibeken/">http://homepage2.nifty.com/umibeken/</a>
NPO法人 グリーンネックレス	<a href="http://www.green-necklace.org/">http://www.green-necklace.org/</a>
NPO法人 環境学習研究会	<a href="http://www.ecok.jp/">http://www.ecok.jp/</a>
NPO法人 全国水環境交流会	<a href="http://www.mizukan.or.jp/">http://www.mizukan.or.jp/</a>
NPO法人 地球野外塾	<a href="http://www.k3.dion.ne.jp/~t-yagai/">http://www.k3.dion.ne.jp/~t-yagai/</a>
NPO法人 かわさき自然調査団	<a href="http://www.geocities.jp/npo_konrac/index.html">http://www.geocities.jp/npo_konrac/index.html</a>
NPO法人 東京どんぐり自然学校	<a href="http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/">http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/</a>
NPO法人 生態工房	<a href="http://www.eco-works.gr.jp/">http://www.eco-works.gr.jp/</a>
NPO法人 自然文化誌研究会	<a href="http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/">http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/</a>
NPO法人 地域自然情報ネットワーク	<a href="http://www.geo-eco.net/index.html">http://www.geo-eco.net/index.html</a>
NPO法人 日本エコクラブ	<a href="http://www18.ocn.ne.jp/~ecoclub/index.html">http://www18.ocn.ne.jp/~ecoclub/index.html</a>
NPO法人 樹木環境ネットワーク協会	<a href="http://www.shu.or.jp/">http://www.shu.or.jp/</a>
NPO法人 府中かんきょう市民の会	<a href="http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/">http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/</a>
NPO法人 東京都ウォーキング協会	<a href="http://enjoywalking.jp/">http://enjoywalking.jp/</a>
NPO法人 自然環境アカデミー	<a href="http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/">http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/</a>
(財)日本自然保護協会	<a href="http://www.nacsj.or.jp/">http://www.nacsj.or.jp/</a>
(財)たましん地域文化財団	<a href="http://www.tamashin.or.jp/">http://www.tamashin.or.jp/</a>
(財)世田谷トラストまちづくり	<a href="http://www.setagayatm.or.jp/">http://www.setagayatm.or.jp/</a>
多摩交流センター	<a href="http://www.tama-100.or.jp/tama/">http://www.tama-100.or.jp/tama/</a>
多摩川源流研究所	<a href="http://www.tamagawagenryu.net/">http://www.tamagawagenryu.net/</a>
東京都奥多摩ビジターセンター	<a href="http://www13.ocn.ne.jp/~okutamav/">http://www13.ocn.ne.jp/~okutamav/</a>
多摩川流域リバーミュージアム（水辺の楽校）	<a href="http://www.tamariver.net/index.htm">http://www.tamariver.net/index.htm</a>
みずとみどり研究会	<a href="http://www3.tky.3web.ne.jp/~sarahh/">http://www3.tky.3web.ne.jp/~sarahh/</a>
多摩川癒しの会	<a href="http://home.m03.itscom.net/iyashi/">http://home.m03.itscom.net/iyashi/</a>
多摩川・リバーシップの会	<a href="http://river-ship.cliff.jp/">http://river-ship.cliff.jp/</a>
多摩川の自然を守る会	<a href="http://homepage2.nifty.com/tamagawa/">http://homepage2.nifty.com/tamagawa/</a>
多摩川サケの会	<a href="http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/">http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/</a>
実践生物教育研究会	<a href="http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/">http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/</a>
八王子・日野カワセミ会	<a href="http://kawasemi.fan-site.net/">http://kawasemi.fan-site.net/</a>
西多摩自然フォーラム	<a href="http://www.ntforum.org/">http://www.ntforum.org/</a>
ラブリバー多摩川を愛する会	<a href="http://homepage3.nifty.com/loveriver/">http://homepage3.nifty.com/loveriver/</a>
玉川上水ネット	<a href="http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/">http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/</a>
ガサガサ水辺移動水族館	<a href="http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/">http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/</a>
多摩川流域市民学会	<a href="http://tamagawa-shimingakkai.at.webry.info/">http://tamagawa-shimingakkai.at.webry.info/</a>
野川流域連絡会	<a href="http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm">http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm</a>
自然の学校	<a href="http://www.geocities.co.jp/Athlete-Acropolis/5483/">http://www.geocities.co.jp/Athlete-Acropolis/5483/</a>
むさしの化石塾	<a href="http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kasekijyuku/">http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kasekijyuku/</a>
里山くらぶ	<a href="http://www.satoyama-club.jp/index.html">http://www.satoyama-club.jp/index.html</a>
歴史古街道団	<a href="http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/index.html">http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/index.html</a>
玉川上水の自然保護を考える会	<a href="http://act.annex-tachikawa.com/cgi/units/index.cgi?siteid=skc-tachikawa&amp;areaid=36241&amp;unitid=tjsk">http://act.annex-tachikawa.com/cgi/units/index.cgi?siteid=skc-tachikawa&amp;areaid=36241&amp;unitid=tjsk</a>
奥多摩サポートレンジャー会	<a href="http://park.geocities.jp/okutama2006/">http://park.geocities.jp/okutama2006/</a>
多摩川クラブ	<a href="http://homepage3.nifty.com/gasagasa/">http://homepage3.nifty.com/gasagasa/</a>
多摩川エコモーション	<a href="http://www.fsifeu.u-gakugei.ac.jp/GP/event/H19/lecture/report/20071117_report.html">http://www.fsifeu.u-gakugei.ac.jp/GP/event/H19/lecture/report/20071117_report.html</a>
美しい多摩川フォーラム	<a href="http://www.tama-river.jp/">http://www.tama-river.jp/</a>
多摩さくら百年物語フォーラム	<a href="http://www.tamasakura100.net/">http://www.tamasakura100.net/</a>

# 5 2009年の多摩川関連の主な新聞記事

1月	9日	東京	異形の蟹気楼	家庭の温排水が一因	8日	毎日	「拝島志茂町屋屋台」今年も	昭島の郷土芸能まつり	
	10日	朝日	豊かな里山撮る	開発控え自然記録	9日	日経	全市立小に設置	太陽光パネル	
	17日	朝日	東京を彩る雪景色		9日	朝日	当面の危機回避 小金井ごみ	国分寺市「9月まで支援」	
	20日	毎日	「心のふるさと」残したい	エックス山で指導者養成講座など	10日	読売	多摩川流域イベント巡り	スタンプ集めて特産品に	
	21日	神奈川	稚アユ見つけた	東扇島・人工海辺で越冬	15日	読売	春告げる 繁殖の水音	マルタウグイ	
	26日	読売	遊学塾 浅川で野鳥観察	多摩さくら百年物語	15日	朝日	三鷹のワサビ田 危機	わき水減り 跡継ぎも・・・	
	26日	神奈川	多摩川の面白と満載	NPO 法人 環境学習指導本を作成	17日	日経	住民の理想 道開く	調布保谷線の東八道・中央道間 開通	
2月	1日	朝日	翔床つくり新しい命	自然再生活動を冊子に	18日	読売	柳瀬川・空堀川の見所紹介	散策マップ、NPO など作製	
	3日	日経	日本編、三ツ星17ヶ所	高尾山や屋久島	21日	読売	湧水が育む自然 次代に	ハケ下の道	
	10日	読売	奥多摩など3ヶ所が候補	「平成百景」	21日	東京	水辺の生き物 観察に行こう	捕るコツ 気持ち考え	
	11日	朝日	国分寺崖線はなぜ残った?	武蔵野でフォーラム	22日	読売	週上 躍る銀色	若アユ	
	12日	読売	資源や環境テーマにシンポジウム	「資源と環境は表裏一体〜地球史から見る〜」	23日	日経	青梅に植林2000本	東芝と都、森づくり第1弾	
	13日	神奈川	リチウム電池使い太陽光発電設置	温暖化対策で川崎市高津区役所に設置	24日	東京	配管工事ミス 1年気付かず	玉川高島屋が多摩川に汚水	
	17日	読売	地域に開かれた集合住宅	玉川上水への通路開放 カフェ・催事スペースも	27日	神奈川	下水処理で発電	川崎市・入江崎水処理センター	
	18日	日経	家庭の太陽光発電 売電	武蔵野市も補助金	28日	日経	奥多摩町の水道事業統合	都が来年4月 浄水設備を整備	
	21日	神奈川	努力の結晶 精巧な姿に	野鳥の彫刻など30点の力作並ぶ	29日	読売	環境学ふカードゲーム	手軽な教材普及 紙芝居、実験器具も	
	21日	読売	平成百景	多摩地区の候補地紹介	30日	読売	甲州街道210km	詳細地図で魅力を紹介	
	23日	神奈川	多摩川の自然未来へ	流域の活動、シンボで総括	5月	5日	朝日	開けば甲州街道	城あり寺あり一里塚あり
	24日	日経	多摩 レジ袋削減広がる	少ない処分場 減量意識高く	10日	神奈川	干潟の自然に子どもら歓声	川崎・多摩川河口で観察会	
	25日	日経	植林費用負担で森林名産協定	企業の森・NTTコムウェア(青梅)	12日	神奈川	温暖化対策の法整備を	勉強会など開催へ	
	26日	読売	緑保全 企業が力	都の制度 参加増える	12日	毎日	ベニシジミ陽春に映え	立川・多摩川	
	27日	読売	緑のカーテン全市立小中で	府中 ゴーヤ、子供が世話 環境学ふ	12日	毎日	「地下水」商品化へ	小平市 今夏にも販売開始	
	27日	読売	授業に生かす「多摩川」	NPO 先生向けガイド作成	12日	日経	単独ごみ焼却場 整備延期	立川との共同処理に含み?	
3月	3日	日経	小金井市のごみ どこへ	抜本策なし、反発広がるも	12日	読売	タヌキの赤ちゃん育てたよ	町田小4・佐草さん 100日の記録	
	5日	神奈川	身近な自然に着目	小中学生700人が研究発表	13日	毎日	奥多摩の水道	事業を都に統合	
	6日	毎日	夢の桜街道 観光ルート整備へ	流域88ヶ所の名所選定	17日	神奈川	多摩川の魅力熱く伝承	市民団体が町おこし	
	7日	読売	落合川の動植物 写真集に	平成の名水百選	18日	読売	日野の丘陵で植物観察	多摩さくら百年物語	
	8日	読売	桜の苗木 奥多摩で植樹	多摩さくら百年物語	19日	日経	都、木材チップを燃料に	都市ガス補助で 年5000万円削減	
	9日	毎日	記録的暖冬 凍らず	檜原村の名瀑 弘沢の滝	19日	日経	青梅で森林整備	都と協定締結 ネットトヨタ多摩	
	9日	朝日	中核地で絶滅の危機	トウキョウサンショウウオ	20日	東京	野生動物 通して多摩丘陵の歴史	写真やはく製150点	
	10日	毎日	自然教室の参加者を募集	奥多摩ビジターセンターで	21日	毎日	林家ライス・カレーさんが環境奇麗	武蔵野で30日	
	10日	東京	「環境」「世界」を身近に	NPO 募金活動「世界の子どもにワクチンを」に参加	21日	神奈川	関係機関の連携確認	高津 多摩川で水防訓練	
	12日	読売	桜植樹 浅川で計画	八王子さくら祭り	22日	神奈川	魅力ある川に	全市一斉に清掃	
	12日	日経	府中も家庭ごみ有料に	ダストボックス廃止の条例成立	26日	読売	ごみ問題 物理学者の視点で	町田の活動紹介	
	17日	神奈川	春の河川敷 舞台に	5740人参加し多摩川駅伝	26日	朝日	「東京の川」テーマに写真展	新宿 アマ写真家24人が参加	
	17日	読売	多摩川「桜の札所」選定	88ヶ所 流域活性化狙い	26日	朝日	CO2削減特別委	福生市議会が設置	
	17日	朝日	カタクリ、春告げる	国分寺・殿ヶ谷庭園で見ごろ	27日	神奈川	アユと親しむ多摩川	児童が放流	
	17日	読売	ホタルの湧水 市民憩う	お鷹の道	27日	毎日	「美しい森をめざして！」	活動概要を展示	
	18日	神奈川	製綱スラグで深場	“海の森づくり” CO2削減	6月	2日	朝日	緑の街めざして	三鷹で名所・広場作り
	19日	読売	奥多摩 山の生活写真集	画家・石山さん自費出版	5日	朝日	玉川上水散策、まもなく400回	今月は「桜桃忌」前 太宰しのぶ	
	21日	毎日	ツバメの巣149個で繁殖行動	グラフ、写真、巣の実物など展示	11日	朝日	都立カヌーボーイズ	青梅総合高に部が誕生	
	21日	神奈川	温暖化防ぐ活動紹介	高津区で推進イベント	14日	朝日	小金井から三鷹歩いて野川学ふ	「多摩川流域懇談会」20日にセミナー	
	25日	日経	小金井市のごみ問題 切迫	来月以降、処理滞る可能性	14日	読売	みずウォーク	多摩川に964人	
	25日	読売	史跡生かし街づくり	まほろばろーど	16日	日経	多摩の中堅中小企業 3大学と連携	次世代エネルギー関連など開発 まず3年で200件目標	
	27日	東京	自然林を次代に残す	西恋ヶ窪緑地で探検塾が開催	19日	朝日	放置70年 自然深まる森	常緑樹増え貴重種も集う	
	29日	朝日	春のうららの多摩川	セイヨウカラシナ オタマジャクシ ゴキョウ	27日	東京	“郷土愛”はぐくもう	多摩川の清掃通じて	
4月	1日	神奈川	美しい桜並木守り続け	移植50周年 ニヶ領用水	7月	7日	日経	立川市、ごみ有料化へ	広域処理へ削減対策急ぐ
	1日	日経	八王子市、受け入れ	小金井市ごみ 前途多難、市民にツケ	7日	日経	おとめ山公園を拡張 新宿区	12年度に完成 周囲の国有地取得	
	3日	神奈川	人気マップ 内容充実	新たなコース加わる	11日	神奈川	ダンボールで生ごみ堆肥に	環境を考え行動する会	
	3日	朝日	ツバメの巣「分布変わらず」	瑞穂の団体調査 97年度と同じ	15日	読売	多摩・写真コンテスト入選作	決定的瞬間とらえた力作	
	3日	日経	「ご当地愛」深めたい	「多摩検定」2日目 2級を新設	21日	朝日	動物を愛しすぎず、一線を引く	よこはま動物園ズーラシア園長 増井光子	
	5日	読売	高尾山環境基金 創設へ	登山客に保全訴え	23日	読売	荘厳な鍾乳洞と巨樹の里	奥多摩	
	5日	読売	遊学塾も桜楽しむ	六道山	27日	東京	水辺に行こう	神田川ネットワーク・江東区の水辺に親しむ会	
	7日	毎日	青梅の名所 100ヶ所紹介	商議所が6000部作製	27日	東京	夢は船で都心回遊	基調講演 法政大デザイン工学部 陣内秀信教授	
	7日	神奈川	水辺に映える桜満開	ニヶ領用水沿い	30日	神奈川	多摩川の魅力満喫 高津	多摩川流域協議会	

8月	2日	朝日	ミヤマクワガタ 大物狙い	奥多摩、週末は「激戦」	15日	神奈川	軍需工場の跡地に潤い	二ヶ領 中原平和公園付近	
	4日	神奈川	緑の遊歩道 保全へ交流	守れ多摩・三浦丘陵地域	17日	読売	武蔵国分寺跡資料館完成	あすオープン「おたカフェ」も	
	4日	神奈川	夕日と演奏楽しんで	9日にコンサート 多摩川河川敷で企画	18日	神奈川	温暖化 消費者も負担	岡崎前知事が環境語る	
	6日	神奈川	水辺で環境保全学ぶ	子どもたち生き物観察会 東扇島	19日	東京	湧水路の自然 官民で保護	小水井「はけの道」	
	11日	東京	生態系の悪影響懸念	目黒区 いきもの台帳に外来種のチョウ	19日	毎日	ヤマビル人里に生息域拡大	農林業衰退も一因	
	12日	毎日	奥多摩のマガギが消えた	東京都猟友会奥多摩支部	19日	毎日	五感で自然を感じる	Bセンス・フォーラム	
	12日	神奈川	地元住民ら子ども向け催し	30日、二ヶ領用水	21日	朝日	花に寄る虫、尾瀬以上	小水井の田中さん5年間記録	
	14日	神奈川	食べてもよし 緑のカーテン	児童らゴーヤー試食 市立小雀小	22日	朝日	伝統漁法でバス捕獲	多摩川の昭和堰下流で秋川漁協	
	14日	日経	玉川上水保護工事へ	整備計画 都が策定	22日	朝日	多摩川の倒木まな板に	狛江と交流 山梨・小菅村で加工	
	14日	神奈川	楽しく学ぶ温室効果	環境科学教室に小中学生 川崎市公害研究所	22日	神奈川	久地起点に面影たどる	二ヶ領用水散策こみち	
	15日	読売	怪めめで上品なレングショウマ	青梅市	23日	朝日	川の環境 釣りで学ぼう	東京海洋大客員教授の奥山さんが多摩川の指南書	
	15日	読売	玉川上水整備へ10年計画	都 歩道整え散策しやすく	23日	神奈川	丹沢再生でカレンダー	丹沢・心のボランティア団体が作製	
	15日	神奈川	知名に学ぶ川崎の今昔	高津区市資料室 親子で挑戦25日まで	25日	神奈川	水源の森守ろう	山梨道志村 横浜RCが間伐作業	
	18日	神奈川	30.5センチ大物釣った	4年ぶり「尺鮎」相模川で宮崎さん	25日	東京	多摩川にコクチバス	伝統漁法も駆使、きょう初駆除 秋川漁協	
	19日	読売	「環境科学」想像力育てる	青山学院高等部 池田敏教諭	27日	読売	廃材アート	国営昭和記念公園で	
	21日	神奈川	多摩川の野鳥たちを撮影	川崎市 大野章さん	27日	読売	時代とともに変化 府中宿 旧甲州街道		
	21日	神奈川	環境革命を築くために55歳で転身	造園家、桐蔭横浜大学教授 浦井雅之	27日	読売	燃やさず炭素化	立川市新装置導入を検討	
	21日	神奈川	都市部の川は命の宝庫	横浜市 渡利博さん	29日	毎日	八王子市の歴史をパレードに	オペラ作曲家仙道作三さん制作	
	21日	神奈川	魚のはく製でアート作品	葉山町 浅井洋司さん	29日	神奈川	地域再生の芽、開花	初黄・日ノ出町 環境浄化推進協議会	
9月	3日	神奈川	新たな歴史掘り起こす	二ヶ領用水竣工400年に向けて	29日	神奈川	「きれいな水」守って	予報士・山本さん講演 出前水道教室	
	3日	神奈川	環境技術で発展を	中国・瀋陽市から研修生 企業や川崎市施設訪問	29日	神奈川	浄水場に森つくろう	戸塚区 小雀小児童ら200人が植樹	
	3日	朝日	高尾山「元気ブナ」危機	樹齢300年 園史道裁判「原告」	31日	東京	羽田沖の生態系に異変	新滑走路埋め立て 東京湾藍い海の会	
	5日	読売	多摩川源流ハイク	19日山梨・小菅村で	11月	1日	読売	水車の歴史学ふ展示	くにたち郷土文化会館
	7日	神奈川	地域性ある沿線開発	小田急電鉄 大須賀 彦社長	1日	毎日	あきる野丘陵 紅葉楽しむ	「紅葉の奥多摩ハイキングと自然観察会」	
	7日	神奈川	廃材いかだ川下り 多摩川		2日	神奈川	多摩川から学ぶ知恵	森手入れし作物作り挑戦 東京農大「源流大学」	
	9日	日経	ごみ排出量最低水準に	多摩地域30市町村	5日	神奈川	中野島から流れを満喫	二ヶ領本川に設けられた乱杭堰	
	9日	読売	CO2排出ゼロスーパー	コープとうきょう 東村山駅前に初の店舗	7日	読売	自然、歴史小冊子に	高尾山と八王子城	
	10日	日経	ミツパチの街づくり	東急自由が丘駅周辺	10日	神奈川	産業と環境 両立5年	川崎 臨海部企業中心に議論	
	10日	神奈川	清掃活動で園児笑顔	緑区 市立竹山保育園 環境美化に取り組む	11日	朝日	多摩川 サケ帰る	狛江 目撃情報相次ぐ	
	12日	東京	日本の風情ある名店	高尾山（東京どんぶらこ）	11日	朝日	ミミズ飼育し環境学ぶ	調布・緑ヶ丘小 自然の循環に理解深める	
	13日	読売	おしゃれ忘れて畑仕事	恵泉女子大生必修科目に汗	14日	朝日	小さな池に父の思い	命つなぐ、虫の「すみか」	
	14日	毎日	小河内の誇りと伝統を継承	「鹿島踊り」を奉納 ダムで移転旧住民が保存会	16日	朝日	有害鳥獣 取り逃がし減少	青梅 飯能両市、合同捕獲で協定	
	21日	読売	遺跡発掘 いつも感動	多摩考古学研究会代表 和田哲さん	17日	神奈川	ランナー5920人が多摩川沿い快走	「川崎国際多摩川マラソン」	
	22日	朝日	絶滅危機の謎を解く	あきる野の川上さんが4冊目の事典	17日	読売	市民憩う クジラの街の原点	「たまり50キロ」大田区から羽村市までの多摩川沿い	
	23日	神奈川	大岡川の桜 生まれ変わり	草木染でつむぎショール 横浜南区の呉服店製作	17日	朝日	国分寺崖線学ぶ「水の学校」開校	住民発案 作家ら招き講義	
	23日	神奈川	散歩楽しめる道に	川崎 全国まちづくり会議	19日	神奈川	眺望を親しめる両岸	宿河原堰から落合へ	
	25日	朝日	屋形船で有志が懇談	多摩川はさき市民交流 狛江〜川崎	20日	毎日	幻想的な川面 八王子の多摩川	今冬一番の冷え込みで水面から水蒸気が上がる	
	25日	日経	「民設公園」第1号整備	東京建物と西武鉄道 東村山に	20日	朝日	図書館漂うひのきの香り	狛江の和泉小 友好都市の間伐材利用	
	26日	朝日	雑木林が学校、先生は鳥	動物写真家 嶋田忠	21日	読売	環境テーマにミュージカル「耕せ！ココロの大地」日野で上演		
	26日	読売	ソプラノ歌手 八王子を歌う	パレード八王子今昔 歌手山口さん、作曲仙道さん	23日	神奈川	水害の歴史を象徴	なぜ、多摩川両岸で同じ地名？	
	28日	東京	東京・地名は生きている	水景色編 等々力	24日	毎日	「21世紀環境展」立川展始まる	温暖化の実態や環境分野で活躍した人を紹介する	
	29日	東京	東京の森を歩く	奥多摩の秘境に、巨樹たちの眠る森	24日	朝日	環境問題 楽しく学ぼう	府中で「エコ博」、昭和記念公園でも	
	29日	神奈川	CO2削減貢献度選定	パイロットブランド 川崎市、製品や技術募集	26日	神奈川	市民の努力で標識建つ	鷹匠橋から円筒分水へ	
	29日	日経	減る農地保全で歯止め	世田谷区が取得、農園に活用 練馬区法制度改正、国に要望	30日	朝日	留学生ら高尾山清掃	母国ネパールでごみ拾う日本人の姿に感動	
	30日	毎日	細く延びる武蔵野のオアシス	玉川上水 赤瀬川原平の散歩の言い訳	12月	3日	神奈川	諸説ある新川の由来	二ヶ領本川と新川
10月	1日	神奈川	環境用水への再生図る	二ヶ領 今なお残る幹線水路	8日	東京	自然との共生 東京 の良さ	東農大の米国人男性 緑地研究の成果語る	
	1日	日経	産廃業者に「お墨付き」	都の外郭団体 安全環境対策などの評価	8日	読売	廃線跡に歴史と自然	野山北公園自転車道 側溝でホタル育む	
	1日	日経	学芸大に環境研究施設寄付	ココロラ教育環境財団	10日	毎日	環境フォーラム 宮崎学氏が講演	自然界の報道写真家	
	1日	毎日	若者流出、高齢化率41%	過疎化進む檜原村	10日	神奈川	新水路と旧流跡を歩く	二ヶ領用水散策こみち	
	5日	朝日	水に潜り伝統アユ漁	あきる野の「さくら漁」実演	17日	神奈川	まんが寺など史跡多彩	二ヶ領用水散策こみち	
	6日	読売	国府の街の象徴 新たな活気	馬場大門けやき並木	18日	毎日	低木伐採 ボランティア	「みんなの森」公益財団設立準備委員会主催	
	7日	神奈川	小学生対象の「環境絵日記」	横浜市 大賞に徳野さんの力作	23日	東京	玉川上水沿い「語る」映画	異色のドキュメンタリー「怒る西行」 沖島勲監督	
	7日	朝日	築130年の蔵カフェに再生	日野の夫妻ギャラリー併設	30日	神奈川	生態系と命を守る「おさかなポスト」	多摩川に魚を捨てないで 一時保護し「里親」へ	
	7日	朝日	町田の里山撮り続け	写真家・宇納さん作品展					
	8日	神奈川	稲作の希望かなえた堀	二ヶ領 大師堀と町田堀					
	8日	朝日	古街道魅せられて	多摩のグループ、あす設立5年					
	14日	朝日	河川敷こじ開けて世界へ	多摩川で/多摩川から、アートする展					
	15日	読売	3食「魚」感謝忘れず	タレント、東京海洋大客員准教授 さかなクン					



た ま がわしやうわようすいぜき  
**「多摩川昭和用水堰」**

作者 山口 喜弘 (やまぐち よしひろ)

1940年東京都生まれ。一級建築士。  
 そのかたわら、山や川の絵を描き続ける。  
 各地で個展を開催し、好評を博している。  
 国土交通省関東整備局京浜河川事務所発行の季刊誌「ひと・かわ・まち」(1999年VOL.4～2005年VOL.29)の表紙の絵を飾った。

▶ **当財団の概要** (2010年3月1日現在)

設立	1974年8月28日
特定公益増進法人認定	1974年9月24日 (2008年11月更新)
主務官庁	経済産業省
基本財産	974百万円
財源	基本財産等の運用収入 並びに寄付金
事業内容	研究助成事業
1 研究助成	総助成件数 1,076件 (新規502件, 継続574件) 総助成金額 1,272百万円
2 学習支援	副読本制作配布 239千部 データブック配布 5千部
印刷刊行物	研究助成成果報告書学術編 研究助成成果報告書一般編 財団だより(季刊) 3,700部 環境副読本(毎年) 13,000部
助成研究選考委員会委員長	高橋 裕 東京大学名誉教授(河川工学専攻)

▶ **役員・評議員**

		(敬称略50音順)
[会長]	西本 定保	東京急行電鉄株式会社 常任顧問
[理事]	新井 喜美夫	当財団 元理事長
	石渡 恒夫	京浜急行電鉄株式会社 取締役社長
	植木 正威	東急不動産株式会社 取締役会長
	大須賀 頼彦	小田急電鉄株式会社 取締役社長
	小川 春夫	亜細亜大学 学長

	加藤 奂	京王電鉄株式会社 取締役会長
	小長 啓一	AOCホールディングス株式会社 参与
	小沼 二	東京都市大学 名誉教授
	櫻井 孝	第一生命保険相互会社 相談役
	清水 仁	東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
	中村 英夫	東京都市大学 学長
	中浦 良夫	東京工業大学 名誉教授
	涌井 史郎	桐蔭横浜大学 特任教授
[常務理事]	馬淵 広三郎	当財団 事務局長
[監事]	岩田 哲夫	東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
	中川 幸次	財団法人 世界平和研究所 副会長
[評議員]	井原 國芳	東京急行電鉄株式会社 顧問
	海老原 大樹	東京都市大学 副学長
		東横学園女子短期大学 学長
	上越 清文	東京急行電鉄株式会社 取締役会長
	後藤 敏昭	東京急行電鉄株式会社 取締役社長
	鈴木 ヨシ子	横浜商工会議所 副会頭
	高橋 裕	株式会社 日立製作所 執行役常務
	高井 信吾	東京大学 名誉教授/選考委員長
	西岡 浩史	サントリー株式会社 取締役副社長
	福原 義春	川崎商工会議所 会頭
	水田 寛和	株式会社 資生堂 名誉会長
	諸江 昭彦	株式会社 東急百貨店 取締役相談役
	山口 裕啓	キャンオン株式会社 専務取締役
	渡辺 通春	学校法人 五島育英会 理事長
[選考委員]	小倉 紀雄	株式会社 東芝 顧問
(◎は委員長)	小堀 美潮	東京農工大学 名誉教授
	新藤 静夫	東京都市大学 環境情報学部 教授
	鈴木 信夫	東京工業大学大学院 教授
	◎高田 貞寿	千葉大学 名誉教授
	増井 光子	千葉大学大学院 医学研究院 教授
	宮川 公男	東京大学 名誉教授
		財団法人 日本自然保護協会 理事長
		よこはま動物園 園長
		財団法人 統計研究会 会長

- 発行日 平成22年3月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団  
 〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14  
 (渋谷地下鉄ビル8F)  
 TEL (03)3400-9142  
 FAX (03)3400-9141  
 ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv/>

